

140年のその先へ
先人の知恵を受け継ぎ、
「つづく」をつくる

経年変化を銅板屋根で表現
はとまちだ

データセンターの実像と未来
インターネットイニシアティブ

銅版画の世界

プロテリアル
茨城工場

久保水産

奈良県立医科大学／中野竜一准教授

アースデイ桐生／東北大学サ
イエンスデイ／銅の日／経済
産業省こどもデー ほか

140年のその先へ 先人の知恵を受け継ぎ、 「つづく」をつくる

一般社団法人日本銅センター 副会長
古河電気工業株式会社 代表取締役社長



森平 英也

当社は、1884年に東京に本所銕銅所、横浜に山田電線製造所がそれぞれ開設されたことをもって創業としており、2024年に140周年を迎えました。これを機に当社グループ パーパスとして『「つづく」をつくり、世界を明るくする。』を制定しました。銅および銅合金の条や棒等の主要生産拠点である日光事業所は日光電気精銅所として1906年に開設され、2026年に100周年を迎えます。

当社の祖業ともいえる銅条・高機能材事業においては、世界で初めてシャフト炉で無酸素銅の製造に成功するなど、様々な技術、製品を開発し、自動車の電動化、通信機器の高性能化など社会のニーズの変化に合わせた価値を市場に提案し続け、エレクトロニクス技術の発展に貢献して参りました。代表的な製品として、パワー半導体向け耐熱無酸素銅「GOFEC®」や電子機器向けの高体積抵抗率を有する銅系抵抗材「EFCR®」シリーズがあります。パワー半導体はカーボンニュートラル実現の鍵となる部品で、GOFEC®はその製造ロスを低減し、EVモーターや電力送信、パッ

テリなどに用いられています。一方、EFCR®シリーズは高精度な電気電子回路に不可欠な抵抗器用材料として、幅広いラインアップを保有し、多様な環境下で安定した性能を発揮しています。特に、EFCR®100は世界最高クラスの体積抵抗率を誇り、モビリティや情報通信分野で用いられています。近年、環境負荷の低減や製造時のエネルギー削減、あるいは資源の枯渇を防ぐといった目的のため、業界をあげて銅のリサイクルに関する取り組みが盛んになっており、当社もリサイクル技術の開発を推進しています。加えて、ご紹介した伸銅品を製造する日光事業所では、栃木県の中禅寺湖から流れる華厳の滝の水を利用した水力発電による電力を使用しています。運営する古河日光発電(株)は足尾銅山の発展と日光電気精銅所の建設に伴い1906年に創業し、現在は馬道、瀬戸山、細尾、上の代の4つの発電所で総認可出力30566kWの発電を行っています。水力発電で全ての電力を賄っている工場は珍しいのではないでしょう。

先人たちの先見の明に驚かされます。当社は今後も地域とのつながりを大切にしながら、各市場におけるお客様のニーズに合わせた素材開発と製品提供を通して社会課題の解決に貢献してまいります。



細尾発電所



GOFEC®